

# 夢湧く夢に夢中

第15号

令和6年12月23日 文責：大谷

## 「学び」を振り返る

二期期初日、わたしは生徒の皆さんに二つのことを話した。

- (1) 「みなあそ学習」スタイルでの授業をします。
- (2) 「対話力」をつけ、「対話」を通じて「学び」を深めていこう。

そこで、二期期の終業式を迎えた今日、改めてこの二点について、皆さんの日頃の授業を通じて振り返りたい。

十月、あるクラスの授業を拝見した。「前の時間はこんな学習をしましたね。では、今日の『めあて』はどうしようか」と、先生が問う。すると、「先生、今日は〇〇について(学習)しましょう」との返答。一見何気ない授業での一コマだとも思いますが、このやり取りこそが、実はとても重要である。なぜなら、この時間の学習が、先生から提示された「めあて」ではなく、これまでの学習を踏まえた「自分ごと」としての「めあて」になっているからである。これが、「みなあそ学習」の「み」(「みんな」で確認)の目指すところである。毎時間の授業の「めあて」は、「他人ごと」ではなく、「自分ごと」であってほしいと願う。このことを、ぜひしっかりと振り返ってみてほしい。

課題が提示されたら、まずは自分で考えてみる(個人思考)。これが「悩んで見つける」の「な」である。どの授業でも、この「な」の時間が十分確保されており、教科書やタブレット等をフル活用して課題に立ち向かう皆さんの真剣な表情に、こちらまで力が入る。そして、個人で考えたことをもとに、隣の人や班の仲間と話し合ったり、教えあったりする「あ」(「話し合い」)、「学」(「学び」)、「合」(「深い」)の時間へと移る。一時の沈黙が解かれ、さっそくタブレットを片手に、いろんな仲間との交流が始まった。「わたしは〇〇

だと思いました。その理由は……」「ああ、なるほどね」教室の至る所から聞こえてくる「話し合い」「学び合い」の声。すると、友達の考えをもとに、タブレットに打ち込んだ自分の考えを書き換えていく人の姿が、一人また一人と増えていく。そう、この姿こそが、「対話」を通じて自分の考えを深めている学びの一例であり、こうした学び合いの積み重ねが、最終的に目指す「深い」(「合」)へと通じていくのだと思った。ぜひ、日々の授業の中で、まずは自分なりの考えを持ち、それが授業を進めていく中でどう変容(または深化)していくかを客観的に楽しんでみるのもいいかもしれない。さて、そう聞くと、さっそくやってみよう、もしくはもう三学期が待ちきれない、と思っている人がいるのではないだろうか。いや、対話力が着実に高まりつつある皆さんであれば、きっといるはずである。そう確信できる二学期だった。

他者との協働学習を終えると、最後に全体で学び合ったことを確認し合う活動へ。ある授業ではこの時間を「発信タイム」と称して、自己の学びを発信しながら「何を学んだか」「何がわかったか」を確認されていた。思わず「そういうことか!」と言いたくなるような「その」時間だった。さらに、約六時間に渡って学習してきた単元を「他の人の考えや資料と比べながら、改めて南阿蘇村のいいところを考えることができた」や「他の地域での取組を学んで、さらに南阿蘇村のよさを発信したい」と、二人が振り返った。まさに「どのように学び、それを通じてどのような変容(もしくは成長)を遂げたのか」を十分に実感できていることが見て取れた。こういった「変容(成長)の実感」を少しずつ少しずつでも積み上げていくために、「みなあそ学習」に取り組んできた二学期だったのである。

こうした「みなあそ学習」を軸にした先生方と生徒の皆さんによる活気あふれる授業をたくさん拝見することができ、とても有意義な二学期だったと実感している。と同時に、すべての皆さんに心から感謝しつつ、よい年をともに迎えたい。

■ 残暑厳しい中始まった二学期も、あっという間に終業式を迎えました。この間、学習成果発表会や合唱コンクール及び修学旅行等の学校行事をはじめ除草作業、教育講演会等のPTA活動にもご協力いただき、職員一同心より感謝申し上げますとともに、新年も引き続きよろしくお願ひ申し上げます。どうぞよいお年を。